

牧師室から (2022.8.7)

先週(29日)父が緩和ケア病棟に入院した。私どもも介護を手伝ったが、一緒に付き添っていた85歳の母も限界であったので苦渋の決断であった。最期は自宅で看取りたかったので、入院させた後はほっとした反面、罪悪感というか、後ろめたさが残ってしまった。父も正直言えば入院は嫌であったであろうが、そのことを面には出さず、みんなに任せると言うので、なおさらやるせなさを感じたものである。そこでみんなで話し合っ、とりあえず介護の夏季休暇ということでまた父が自宅に戻ってきてもよいように備えておこうということとなった。

介護を手伝って分かったことは、もちろん肉体的にも疲れるが、それ以上に精神的な疲れ、負担が大きいということである。夜中に起こされてわけのわからない妄想を延々と聞かされたり、感情失禁などがあると対応に疲れてしまう。逆に、体を洗ってあげたり、ガーゼを取り換えた時に「有難う」が一言有ったり、ご飯を作ってあげたら「旨い」と正直な一言があるときには、報われたという気持ちがこみあがってくるのである。

これからどれくらい時間が残されているかわからないが、悔いのないようにしたいと思っている。教会の皆様にも大きな負担をおかけすることとなりますが、どうぞよろしくお願い致します。

(鈴木淳一牧師)